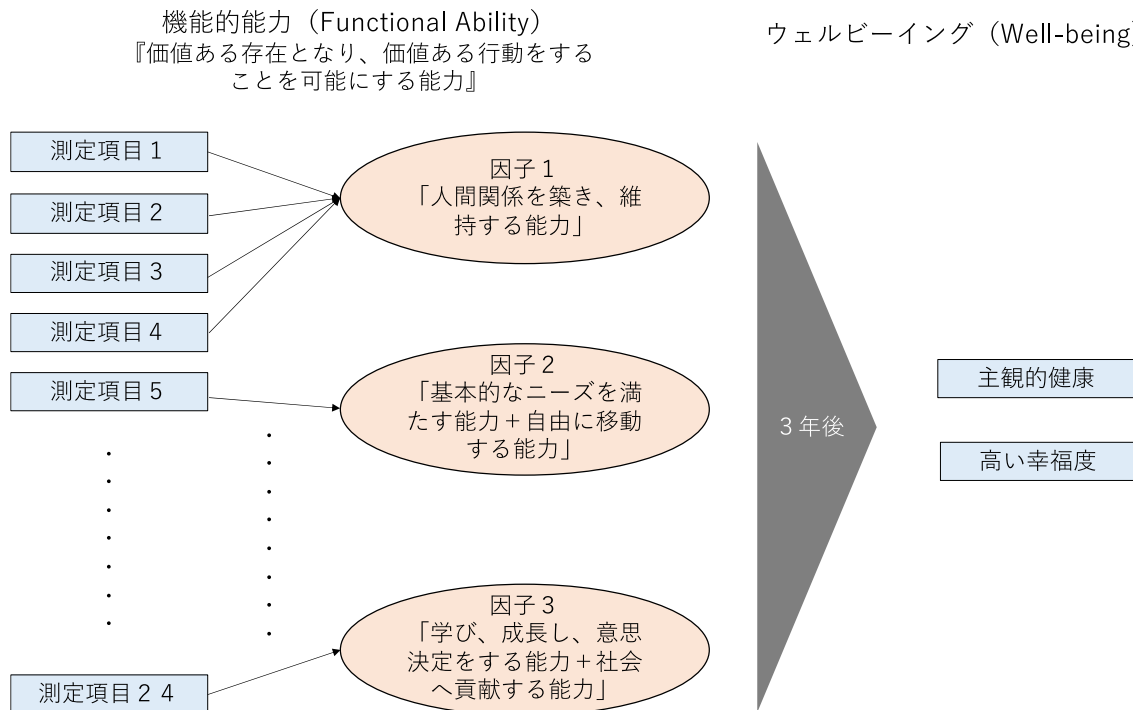


# 国連が提唱する、健やかに年を重ねるための 「機能的能力」の評価指標：世界初の妥当性検討と開発

## 概要

京都大学大学院医学研究科の近藤尚己教授、西尾麻里沙同博士課程学生らの研究グループは、国際連合が提唱した「Decade of Healthy Ageing（ヘルシーエイジングの10年間）」に基づき、ヘルシーエイジングの指標として注目される機能的能力（Functional Ability）の測定方法を開発しました。日本の65歳以上の高齢者約35,000人のデータを用い、31項目の候補から選ばれた24項目によって機能的能力を評価する方法を提案しました。この測定結果は、主観的な健康状態と幸福度で測定した3年後のウェルビーイング（Well-being）を予測することが示され、機能的能力の実証的な妥当性を確認した初めての研究となりました。

本研究によって、日本の高齢者データに基づいて機能的能力の概念が裏付けられたことが示され、ヘルシーエイジングの推進に貢献しました。今後は、他国のデータを用いて機能的能力の概念を更に検証し、世界的な普及とモニタリングを進める方針です。本成果は、英国の国際学術誌「Age and ageing」にオンライン掲載されます。



お問合せ先：京都大学大学院 医学研究科 社会疫学分野 教授 近藤 尚己

kondo.naoki.0s@kyoto-u.ac.jp



## 1. 背景

国際連合は、2021 年～2030 年の 10 年間を「Decade of Healthy Ageing（ヘルシーエイジングの 10 年間）」に設定しました。ヘルシーエイジングは、機能的能力（Functional Ability：個人の身体的・精神的な能力とそれを活かすことができる環境の組み合わせ）を養成・維持することで Well-being を目指す概念であり、その進展を表す指標として機能的能力のモニタリングを各国に促しています。しかし、機能的能力の測定方法や、その概念的妥当性はほとんど検討されておらず、モニタリングの実施は困難でした。そこで、本研究は、日本に住む 65 歳以上の高齢者約 35,000 人のデータを用いて、機能的能力の測定方法とその概念の妥当性を検討しました。

## 2. 研究手法・成果

理論に基づいて選択された 31 項目の候補から、3 因子から成る 24 項目で機能的能力を測定できることが示唆されました。このようにして測定された機能的能力は、主観的な健康状態と幸福度で測定した 3 年後のウェルビーイング（Well-being）を予測することが明らかになりました。

## 3. 波及効果、今後の予定

本研究は機能的能力の概念を実証的に検証した世界で初めての研究であり、本研究結果は、日本の高齢者のデータによって機能的能力の概念が裏付けられたことを示しています。ヘルシーエイジングの世界的な普及とモニタリングの推進のためには、他国のデータを用いて機能的能力の概念を検証する更なる研究が必要です。

## 4. 研究プロジェクトについて

今回二次利用した日本老年学的研究機構（JAGES）のデータを含む本研究は、日本学術振興会（JSPS）、JSPS 科研費、厚生労働科学研究費補助金、AMED、科学技術振興機構、笹川スポーツ財団、日本健康増進財団、千葉県健康増進・疾病予防財団、8020 推進財団、国立長寿医療研究センター、明治、桜美林大学、新見大学の助成を受けて実施されました。

### <用語解説>

- ヘルシーエイジング（Healthy Ageing）：ヘルシーエイジングは、2002 年に WHO によって策定された政策枠組みである、「アクティブエイジング（Active Ageing）」に代わるコンセプトとして提唱されました。ヘルシーエイジングは、「高齢になってもウェルビーイングを持ち続けられる機能的能力を発展させ、維持する過程」と定義されています。
- 機能的能力（Functional Ability）：機能的能力は「価値ある存在となり、価値ある行動をすることを可能にする能力」と定義されています。そこには、「基本的なニーズを満たす能力」、「学び、成長し、意思決定をする能力」、「自由に移動する能力」、「人間関係を築き、維持する能力」、そして「社会へ貢献する能力」が含まれます。



<論文タイトルと著者>

タイトル Measuring functional ability in United Nation's Healthy Ageing: testing its validity using Japanese nationwide longitudinal data

(国際連合による Healthy Ageing の枠組みにおける機能的能力の測定：日本の全国縦断データを用いた妥当性の検証)

著者 Marisa Nishio, Maho Haseda, Kosuke Inoue, Masashige Saito, Naoki Kondo

掲載誌 Age & ageing

DOI doi: 10.1093/ageing/afad224.

<お問い合わせ先>

西尾 麻里沙 (にしお まりさ)

京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 国際保健学講座 社会疫学分野 博士課程 (後期) 学生

TEL : 075-753-4355

FAX : 075-753-4599

E-mail : marisa.nishio@gmail.com

Researchmap : [https://researchmap.jp/marisa\\_nishio](https://researchmap.jp/marisa_nishio)